

## 放送教育（全国放送教育研究会連盟） 校種別研究交流会 ②小学校

## テーマ ■ 人間力の育成

● 活用番組「道徳ドキュメント」「おはなしのくに」

コーディネータ 亀井美穂子（椋山女学園大学）

発表者 山本 英史（熊本県熊本市立泉ヶ丘小学校） 竹下 佳余（東京都千代田区立九段小学校、全放連人間力育成プロジェクト）

制作者 宇治橋祐之（NHK学校教育番組部）

司会者 佐藤 拓（川崎市立久本小学校） 記録者 寺村 勉（さいたま市立仲本小学校）

## 1 発表概要

## (1) 山本英史先生

山本先生は、番組活用を通して「ドキュメンタリーで人間の生き方にふれ、継続視聴から見る力を育てる」というテーマで実践報告をした。

教師が子どもたちにつけさせたい力と制作者の思いが一致したとき、番組は大きな成果を発揮するという考えのもとに「道徳ドキュメント」『命のたいせつさを伝えて』を視聴。その後、①課題をつかむ、②視聴（完全視聴・分割視聴）、③ワークシート（Web上のワークシート）、④行動化（生活の中にかえす）という学習の流れの中で、あらすじ、教材用写真、台本、授業レポートなどWeb上の資料を有効的に活用した授業を行った。

## (2) 竹下佳余先生

竹下先生は「おはなしのくに」『セーターになりたかった毛糸玉』の実践報告をした。番組を使う理由として、①人間力との関係から工夫して物語を導く力、論理的思考判断力、②言語活動をたくさん経験する階段、③知的要素、④共感的理解力、の4要素をあげ、継続視聴と表現活動に取り組んだ。番組視聴、表現交流、表現活動を通して、スモールステップで授業を構成している様子を紹介した。

## 2 研究協議内容

参加者からの質問により、活発な意見交流が行われた。主なものは以下のとおりである。

## (1) 低学年にお勧めの番組について

山本先生「低学年では、ドキュメンタリーは難しい」

竹下先生「動物が出てくるものはいいのではないかと思う」

制作者「キャラクターものは低学年にいれ、中学年は子どもが主人公のもの、高学年はドキュメンタリーと考えている」

参加者「継続視聴により、子どもは何を考え話せばいいか分かるようになる」

## (2) 15分間の視聴後に書いて話し合うことの難しさについて

山本先生「番組を見ながら書くことは力がなければできない。書いてほしいときは事前に配るが、そうでないときは配らない。書く時間は、取りたい」

竹下先生「ゴールは国語の授業では感想。自分の考えを書くことを経験するのは楽しいことです」

## 3 指導・講評

亀井先生から「竹下実践は、書くことを重視している。吹き出しやイラストなどの書く欄があり、それをどのように見取るかを大切にしている。山本実践は、大切なシーンのコメントを思い出させるための工夫があり、使いやすい番組と発達段階を考えた取り組みをしている」との講評があり、丸ごと継続視聴、驚きの共有がもたらす効果、メモシートを計画的に配ること、国語の授業の中で書くことの成功体験を与えることの大切さについてご指導いただいた。

